

症例1 . MS 74歳 男性 税理士

主症状：言語障害、見当識障害

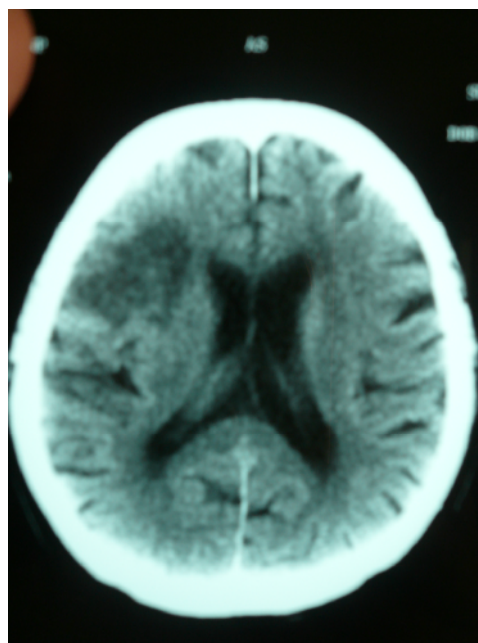
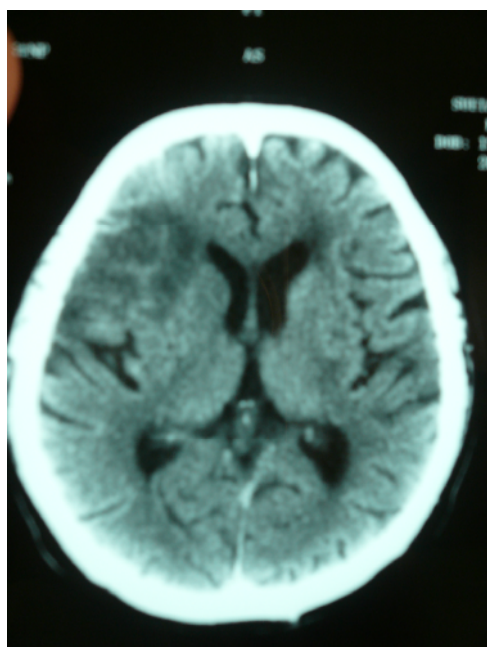
既往歴：糖尿病、高血圧

現病歴：2006年12月1日夜、飲酒後言動異常（つじつまが合わない）が出現。

翌日昼頃に着衣失行出現し、自分の年齢がわからない等の症状があり、脳神経外科受診。

脳梗塞の診断で某病院を紹介され入院した。見当識障害、即時記憶障害、施行・判断力の低下がみられた。MRIで右前頭葉の梗塞を認めた。麻痺はなかったが、MMSE8/30と認知機能障がいが見られた。その後MMSE 26/30へ改善したが記憶力低下、注意・集中力低下がみられ、12月15日回復期病棟へ入院。

経過：入院時意識は清明で麻痺はみられなかった。頭部CTで右前頭葉外側部に低吸収域を認めた（下図）。



MMSE28/30、選択、同時処理における注意障害を認めた。WAIS-RはVIQ115、PIQ94で相対的にPIQの低下を認めた。リハビリテーションと並行して、外出により家業に関わった。3月中旬には、WAIS-RはVIQ120、PIQ112となった。税理士としての仕事も、担当官と十分に相手できるまで、忍耐力、注意力ともに向上がみられた。